

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部林業振興課、漁業振興課、食産業・商業振興課、漁業振興課
------	-----	-------	------------	-------	----------------------------------

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開
------	-------	-----	-------------------

政策概要	多様化する消費者ニーズに対応し、流通現場の目線に立った県産農林水産物の生産と販売力の向上を目指します。
------	---

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標
1	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化 産地間の競争を勝ち抜き、消費者に選択される高品質で安心・安全な米、麦、大豆の低コストによる生産を目指します。	・みやぎ産品認知度・シェア 農畜産物(生産額20億円以上の品目数)
2	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上 稲作の比重が大きい本県農業をよりバランスのとれたものとするため、野菜、花き、果樹、肉牛などのブランドの確立、生産性の向上、販路拡大を目指します。	・みやぎ産品認知度・シェア 農畜産物(生産額20億円以上の品目数)
3	県産木材のブランド化と品質の向上 住宅を建築する際に、消費者が安心して使用できる木材の提供と販路の拡大を図るため、県産木材の品質向上とブランド化を目指します。	・安心・安全なみやぎ産品の供給量 みやぎブランド材(品質基準適合製材品)出荷量
4	県産水産物のブランド化と品質の向上 生産者自らがマーケティング活動を展開し、多様化する消費者ニーズや流通形態に対応した県産水産物のブランド化と品質向上による、販路・シェアの拡大を目指します。	・みやぎ産品認知度・シェア 水産物(仙台・東京中央卸売市場における主要品目販売額シェア) ・水産加工品品評会受賞品の継続製造・販売品目数
5	有機農産物等の生産 農業のもつ自然循環機能を活かして、環境にできるだけ負荷をかけずに、消費者の求めている安全・安心志向に対応した有機農産物などの生産を目指します。	・環境保全型農業に取り組む農家数の割合及び県認証制度、エコファーマー等取り組み農家数の割合
6	安全・安心な食料生産のための衛生管理の高度化 消費者が求めている安全で安心な食材や食品の生産と流通の確保を図るため、農林水産物や食料品の品質の向上と衛生管理の高度化を目指します。	・安心・安全なみやぎ産品の供給量 HACCP方式等高度衛生管理導入施設数 県産牛の出荷頭数
7	県産品の流通・販売の促進 消費者ニーズや市場における評価を的確に把握しながら、県産品のPR活動やブランド化を進め、消費の拡大と販路の拡大を目指します。	・みやぎ産品認知度・シェア 農畜産物(生産額20億円以上の品目数) 水産物(仙台・東京中央卸売市場における主要品目販売額シェア) 木材(県の製材用木材需要量に占める県産材率)

A - 1 - 2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

(単位:点)

	第1回(H13)	第2回(H14)	第3回(H15)	第4回(H16)	
重視度(中央値) A	79	80	80	79	
満足度(中央値) B	60	60	60	60	
かい離 A-B 【かい離度】	19 【中】	20 【高い】	20 【高い】	19 【中】	

かい離:極めて高い(40点以上),非常に高い(30点以上~40点未満),高い(20点以上~30点未満),中(10点以上~20点未満),低い(10点未満)

A - 1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切	概ね適切	課題有
----	------	-----

A-1-1 【政策目的に沿った施策か】 適切 ・各施策の概要は上記記載のとおりであり、政策を実現するため7施策全てが必要と認められる。 【施策の重複・矛盾点の有無】 適切 ・各施策が政策達成に向けて適正に設定されている。また、対象施策、事業の業種によりその対策は異なるため、重複や目的は矛盾しない。
A-1-2, A-1-3 【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 適切 ・政策目的の達成のために、各施策は消費者ニーズを的確に把握し、その対応を基本とし、生産から消費に至る一連の事業展開である。県民満足度調査の重視度は79点と前回より1ポイント下がったが、全政策中36政策のうち11番目と、重視度の高い政策であり、県民も優先的に本施策を進めるべきと認められる。

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括	
	優先度(直近の3回)	県民が必要と感じているか()				
1	第4回 16.4%	3位	・本施策の優先度は7施策中3位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:ある程度感じている	・米は消費量の減退の一方で外食、中食をはじめ新たなニーズとして拡大傾向がある。また、消費者の安全安心志向に応える生産振興も求められている。さらに麦・豆も米と同様本県主要作物として、低コストを図りながら高品質の生産が求められていることから本施策が必要である。また地域の「地域水田ビジョン」達成に向けた支援を、さらに充実する必要がある。 ・食や農産物等に対する安全安心への消費者ニーズが高まっているなか消費者ニーズを踏まえた生産振興とブランド化を推進するとともに、農産物の付加価値向上等のため、アグリビジネスの展開が不可欠であることから本施策が必要である。また地域の「地域水田ビジョン」達成に向けた支援を、さらに充実する必要がある。 ・「住宅の品質確保に関する法律」の施行等により、品質の高い製材品の需要は増えているが、県内の国産材出荷量に占める乾燥材の割合が全国平均と比較して低い状況にあるため、本施策に重点的に取り組む必要がある ・県全体の優先度は低いが生産圏域である石巻、気仙沼・本吉圏域での優先度1位の割合は他の圏域より突出して高く、その数値も年々増加している。 ・消費者ニーズの多様化や産地間競争に対応するためには本施策に重点的に取り組む必要がある ・JAS有機農産物の国内生産生産量が拡大傾向にあるものの国内総生産量の1%にも満たないことから、有機農産物を含めた、環境への負荷が少ない「特別栽培農産物」や「エコファーマーが取り組む農産物」等の増大を進める施策が必要である ・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。	大	
	第3回 15.1%	3位				
	第2回 13.8%	3位				
2	7.2%	5位	・本施策の優先度は7施策中5位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:比較的感じていない		・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。	大
	9.3%	4位				
	8.3%	5位				
3	2.6%	7位	・本施策の優先度は7施策中7位である。 ・本施策のかい離は22点と高い。 【結論】 必要性:比較的感じていない			・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。
	2.6%	7位				
	3.1%	7位				
4	6.4%	6位	・本施策の優先度は7施策中6位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:比較的感じていない	・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。		
	6.0%	6位				
	5.9%	6位				
5	9.3%	4位	・本施策の優先度は7施策中4位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:比較的感じていない		・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。	
	9.2%	5位				
	10.0%	4位				
6	33.0%	1位	・本施策の優先度は7施策中1位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:かなり感じている			・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。
	34.0%	1位				
	36.5%	1位				
7	24.4%	2位	・本施策の優先度は7施策中2位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性:かなり感じている	・食の安心・安全に関する県民の関心の高さを反映し、優先度は3年連続1位であるが、かい離は20点と高く、本施策の必要性を県民の多くが感じている。 ・よって、今後とも、本施策を重点的に取組み、なお一層の内容の充実を図る必要がある。 ・優先度の推移を見るとおり、食材はもとより、木材など広く県産品に対する関心や需要が益々高まっている。 ・対象とする品目や業種が多岐にわたり、また複雑・多様な流通形態に応じた幅広い事業展開が必要である。 ・厳しい経済情勢の中、本施策を重点的に取組み必要がある。		
	23.4%	2位				
	21.6%	2位				

必要性のランク【結論】:非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切 概ね適切 課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】適切 ・7指標の設定については適切であり、今後も継続する。	「政策評価指標分析カード」から
【重視すべき施策に指標が設定されているか】適切 ・必要性を「大」とした施策全てに指標が設定されており適切である。	

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視点	政策全体	施策1	施策2	施策3	施策4	施策5	施策6	施策7
政策評価指標達成度	有効	有効	有効	有効	概ね有効	有効	有効	有効
県民満足度	有効	有効	有効	有効	有効	有効	有効	有効
社会経済情勢	有効	有効	有効	有効	有効	有効	有効	概ね有効
全体	有効	有効	有効	有効	概ね有効	有効	有効	有効

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・当該政策に関し、施策群設定の妥当性(A-1)、政策評価指数群の妥当性(A-2)、施策群の有効性(A-3)を総合的に検証した結果「適切」と判断する。
--

対象年度 H16

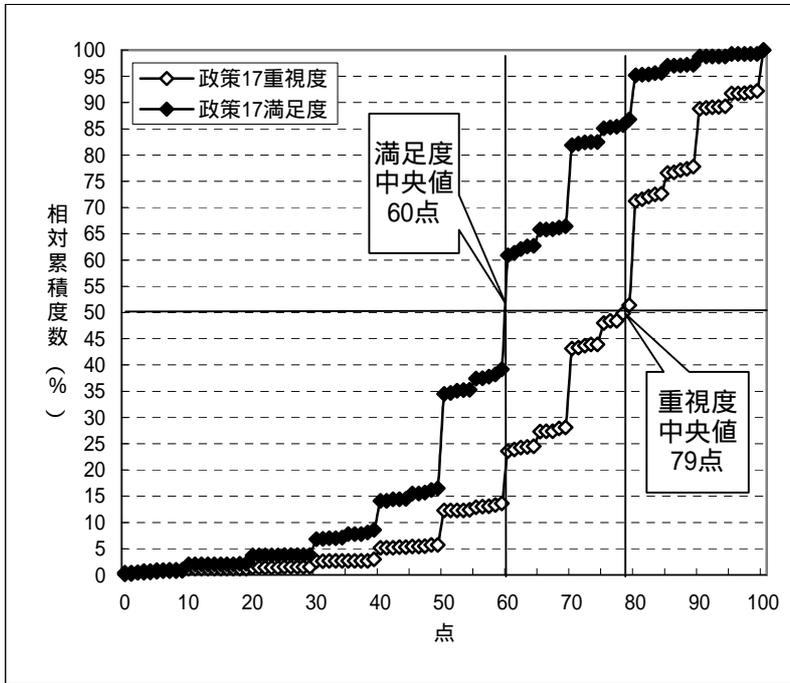
政策番号 2-5-2

政策名 消費者ニーズに即した産業活動の展開

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 69.3

高認知度 59.8



高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心があった」、「ある程度関心があった」を選択した回答者の全回答者に対する割合

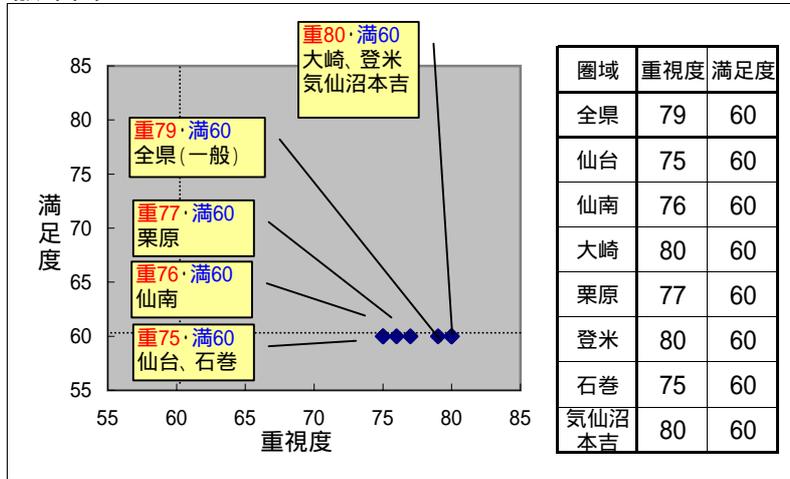
高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っていた」、「ある程度知っていた」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量						
全県						
項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	79	80	80	60	60	60
第1四分位	-	-	-	50	50	50
第3四分位	-	-	-	70	70	70
四分偏差	-	-	-	10	10	10

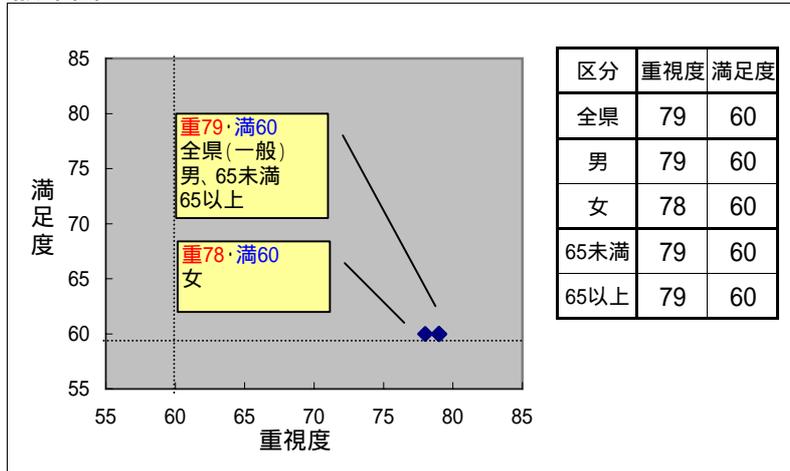
圏域別中央値(一般、市町村のみ)						
圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
全県	79	80	80	60	60	60
仙台	75	75	-	60	60	-
仙南	76	75	-	60	60	-
大崎	80	80	-	60	60	-
栗原	77	80	-	60	60	-
登米	80	80	-	60	60	-
石巻	75	77	-	60	60	-
気仙沼本吉	80	80	-	60	65	-

男女別・年代別中央値(一般のみ)						
区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
全県	79	80	80	60	60	60
男	79	-	-	60	-	-
女	78	-	-	60	-	-
65未満	79	-	-	60	-	-
65以上	79	-	-	60	-	-

散布図



散布図



対象年度 H16

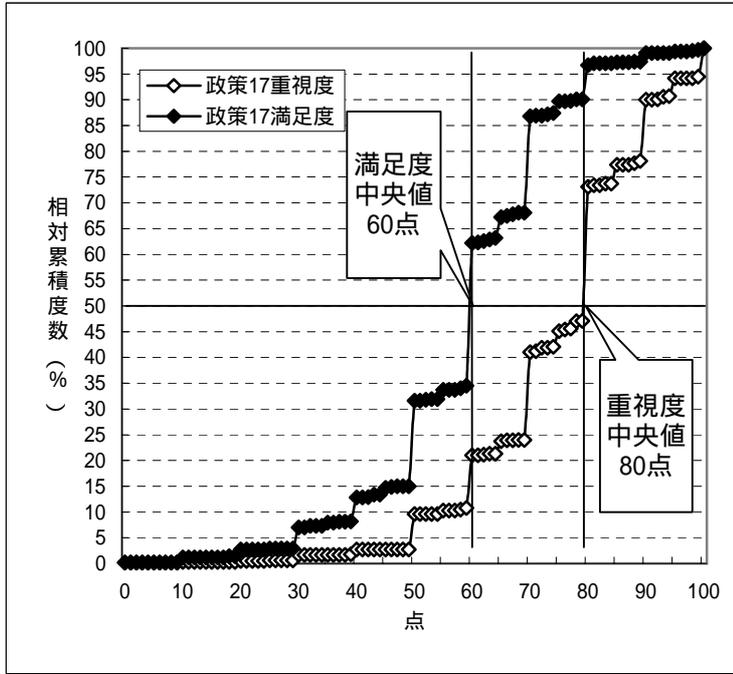
政策番号 2-5-2

政策名 消費者ニーズに即した産業活動の展開

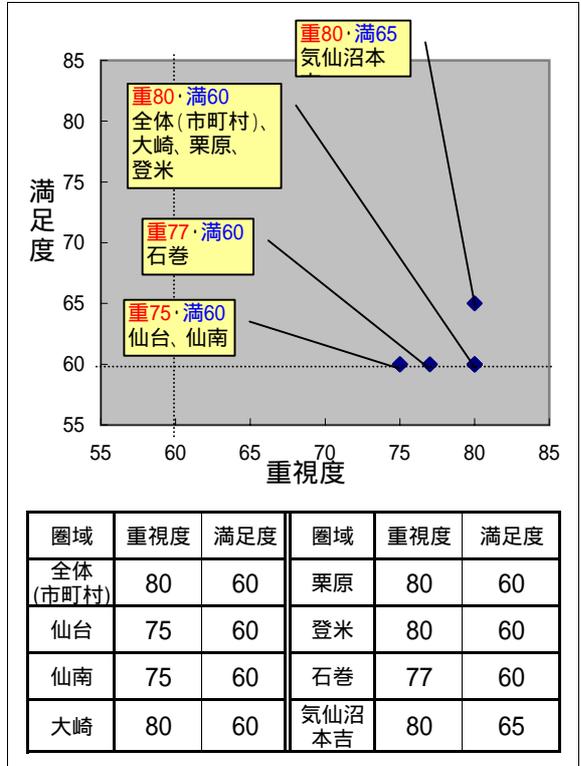
(2) 有識者(市町村) 県民満足度調査結果

高関心度 73.4

高認知度 73.6



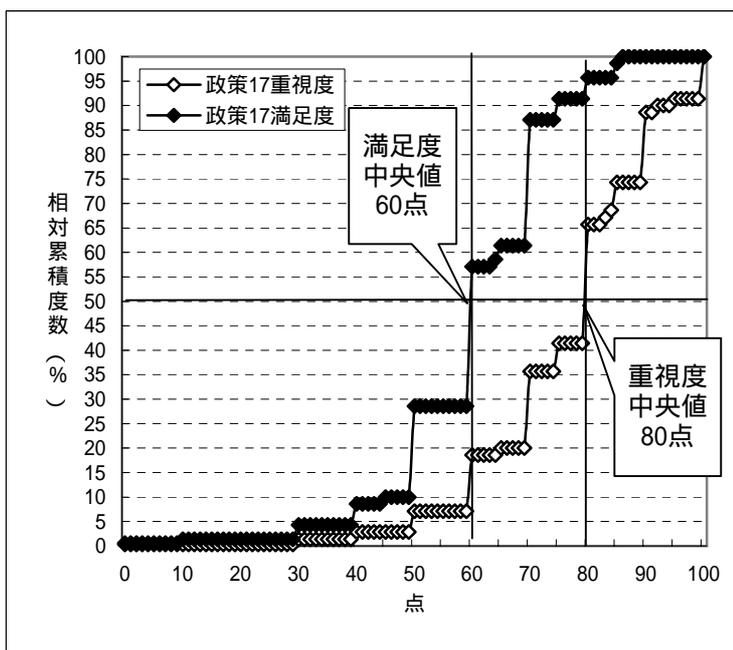
散布図



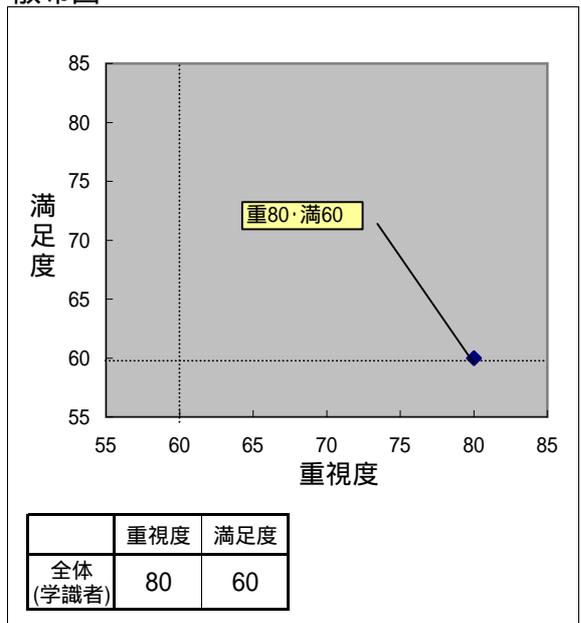
(3) 有識者(学識者) 県民満足度調査結果

高関心度 80.0

高認知度 74.3



散布図

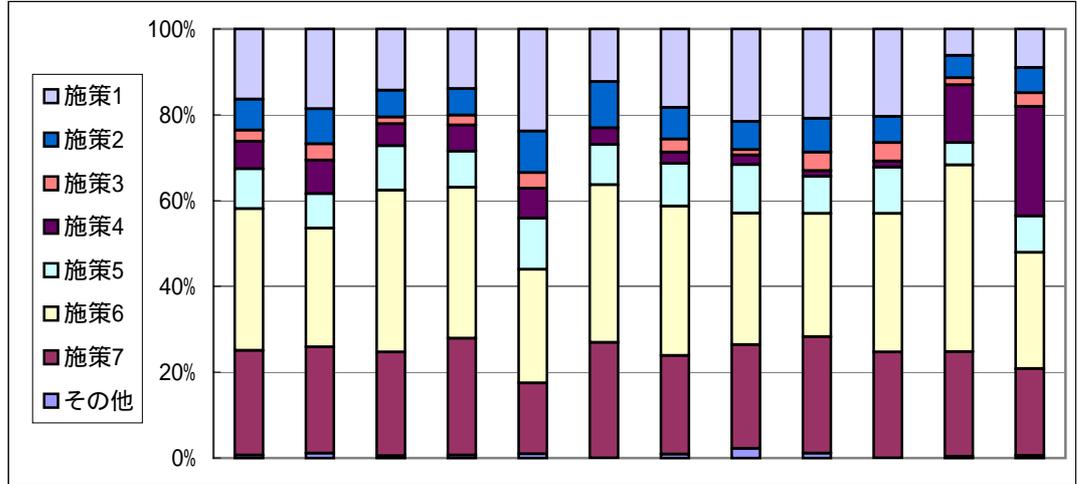


対象年度 H16

政策番号 2-5-2

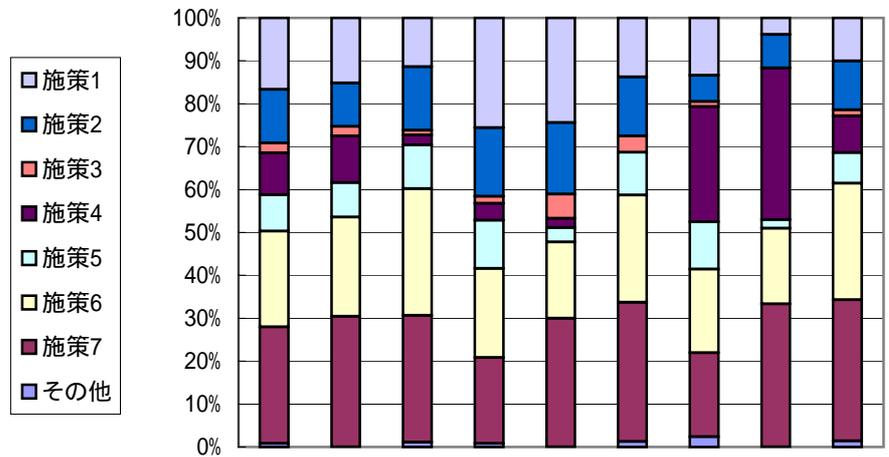
政策名 消費者ニーズに即した産業活動の展開

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉
施策1	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化	16.4	18.6	14.3	13.9	23.8	12.3	18.3	21.6	20.8	20.4	6.2	9.0
施策2	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上	7.2	8.2	6.2	6.2	9.7	10.8	7.4	6.5	7.9	6.1	5.2	5.9
施策3	県産木材のブランド化と品質の向上	2.6	3.8	1.6	2.3	3.6	0.0	3.0	1.3	4.3	4.3	1.6	3.2
施策4	県産水産物のブランド化と品質の向上	6.4	7.8	5.1	6.1	7.0	3.8	2.6	2.2	1.4	1.4	13.5	25.5
施策5	有機農産物等の生産	9.3	8.0	10.4	8.4	11.9	9.4	10.0	11.3	8.6	10.8	5.2	8.5
施策6	安全・安心な食料生産のための衛生管理の高度化	33.0	27.7	37.7	35.2	26.5	36.8	34.8	30.7	28.7	32.3	43.5	27.1
施策7	県産品の流通・販売の促進	24.4	24.8	24.2	27.2	16.5	26.9	23.0	24.2	27.2	24.7	24.4	20.2
	その他	0.7	1.1	0.5	0.7	1.0	0.0	0.9	2.2	1.1	0.0	0.4	0.6

(5) 有識者(市町村・学識者)県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	市町村優先度								学識者優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉	
施策1	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化	16.7	15.2	11.4	25.6	24.4	13.8	13.4	3.9	10.0
施策2	野菜・花き・肉牛等のブランド化と生産性向上	12.5	10.1	14.8	16.0	16.7	13.8	6.1	7.8	11.4
施策3	県産木材のブランド化と品質の向上	2.3	2.2	1.1	1.6	5.6	3.8	1.2	0.0	1.4
施策4	県産水産物のブランド化と品質の向上	9.7	10.9	2.3	4.0	2.2	0.0	26.8	35.3	8.6
施策5	有機農産物等の生産	8.5	8.0	10.2	11.2	3.3	10.0	11.0	2.0	7.1
施策6	安全・安心な食料生産のための衛生管理の高度化	22.3	23.2	29.5	20.8	17.8	25.0	19.5	17.6	27.1
施策7	県産品の流通・販売の促進	27.2	30.4	29.5	20.0	30.0	32.5	19.5	33.3	32.9
	その他	0.8	0.0	1.1	0.8	0.0	1.3	2.4	0.0	1.4